

すべての女性が輝く明日のために

JAUW会報

第278号
2023年3月



一般社団法人
大学女性協会



特集 2023年度全国総会ご案内・国内奨学金贈呈式

会長挨拶「次世代に学び、つなげる」……………	2	コンサート、新春のつどい……………	10
2023年度全国総会・定時会員総会日程……………	3	東京支部オンライン講演会、……………	11
国内奨学金贈呈式……………	4~7	静岡支部オンライン公開シンポジウム	
GWI 総会報告 ……………	8	お知らせ……………	12
国連第3委員会出席報告、第14回Jカフェ ……	9	守田科学研究奨励賞贈呈式、パトリシア募金、 コンサート、CSW67派遣生決定、収益事業委員会、 新入会員、理事会から	

次世代に学び、つなげる

会長 岩村道子



2023年は世界中でコロナ規制がほぼ撤廃されて3年ぶりに人々の自由な往来が始まろうとしています。一方では昨春から始まったウクライナへのロシアの侵攻はいまだに終結の兆しもみえず、世界から平和という言葉が消えてゆくような感

じがしています。

大学女性協会は1月14日に「新春のつどい」をこれまでの京王プラザホテルから神田の学士会館に会場を移して開催いたしました。2022年度国内奨学金贈呈式に続く祝賀の宴では、アクリル板の仕切りのないテーブルでの祝いの食事を和やかな歓談とともに楽しむことができました。恒例となっている奨学金贈呈後の国内奨学生の研究や今後への抱負についてのスピーチに、この世界にはまだまだ輝いてゆける未来があると感じたのは私だけではなかったと思います。また、奨学生の皆さんから頂いた大学女性協会に対する感謝と温かい声援を糧として、JAUWはこれからの活動をつづけてゆきたいという気持ちを強くいたしました。

そして今、心に浮かんだのは昨年10月に開催したJAUW公開シンポジウムの基調講演者からいただいた「ケアしあうコミュニティをつくろう」というメッセージです。大学女性協会は「平和な世界をつくる」ことを目標にして「奨学・奨励」事業を行って「女性リーダー」を育てようとしております。いわば、私たちシニアの思いを次世代に伝え励ますことを目標としていますが、思いを伝えるばかりではなく次世代の思いをいただき「ケアしあうつながり」を作ってゆくことが今は求められていると思います。そのために、理事会では次世代の思いを受け止める場を作る準備を進めております。

次世代と心を通わせたいという思いを私たちの誰もが漠然ともっているからか、「教育・ジェンダー・共生」のメインテーマのもと「ユースの視点から見直そう これからの日本」をサブテーマとして開催した今年度のシンポジウムには、全国から会員の方たちが多数参加してくださいました。パネリストとして登壇した大学生や、現役の教員・研究者である若手会員の話に感銘を受け励まされたとの感想を参加者からいただいております。さらに、今年度は「ユース

の視点から見直そう」というサブテーマにつながる企画として、2月19日にワークショップ「世代・文化を越えてジェンダーを再考する」を開催いたします。東京と京都に会場を設け、元国内奨学生など若い方たちの参加を願ってのハイブリッド形式での開催です。元JAUW安井医学奨学生、香港、ウズベキスタン、インドからの元JAUW国際奨学生を話題提供者として、女性が研究を続けるために行われている施策やジェンダー意識などについて日本と諸外国を比較し、今後について皆で考えてゆこうというワークショップです。このワークショップは、大学や研究所の職員で多忙の若手会員の方たちに企画をお願いして実現いたしました。“女性としての生きづらさ”がテーマと伺って、ジェンダーギャップ指数116位の日本では当然のことと思いつつ、比較的恵まれた環境になってきているのではと想像していた研究者の世界でも未だに問題であることに闇の深さを感じました。私は20年以上前に女性研究者の生きづらさについて研究調査をいたしました。そのころに聞こえてきた“生きづらさ”への悩みがそのまま今も続いているどころか、社会の進化、多様化などによりますます拡大しているのではないかと暗澹たる思いです。

コロナ禍で世界のデジタル化が目覚ましく進み小学生がタブレットやPCをノートと鉛筆のように扱い、殆どのシニアは若者の助けでなんとかスマホ、オンライン会議などをこなしているような社会となりました。大学女性協会でもこの3年余りでオンライン会議やオンライン講演会開催が日常化されてきました。しかしながら、このようなシステムになじめない、なじみたくないとお考えの会員も多数いらっしゃるかと伺っております。今後は対面での話し合いや紙面での連絡の楽しさを充実させると同時に、新しいシステムの便利さ、楽しさもお伝えできたらと願っています。

今年度の定時会員総会は、理事会主催で5月21日に全国からのアクセスが便利な東京品川地区で開催いたします。大学女性協会が一般社団法人として認可された2012年そして2014年以来の東京での開催です。ぜひ皆様にご参加いただき、会員の減少、高齢化が深刻な問題となっている大学女性協会の今後など一緒に考えてゆきたいと願っております。また、東京オリンピックを契機として大きく変貌した東京湾岸地域などもこの機会にお楽しみいただきたいと存じます。

2023年度全国総会・第12回定時会員総会日程

2023年度全国総会・第12回定時会員総会ご案内

2023年度全国総会・第12回定時会員総会を下記の日程で開催いたします。

皆様お誘い合わせのうえ、ご出席くださいますようご案内申し上げます。

1. 総会日程（会場：グランドプリンスホテル新高輪3F）

5月20日（土）

支部長会 14：30～17：00 平安

懇親会 18：00～20：00 天平

5月21日（日）

全国総会 9：30～16：00 天平

午前の部 第12回定時会員総会

午後の部 全国総会 報告・懇談・ワークショップ等

2. 参加費

懇親会参加費：11,000円

総会費：3,000円 総会昼食代：3,500円

3. 宿泊

宿泊の方は、各自でご希望のホテル・旅館等の予約をお願いいたします。JAUW としての特典はございません。

4. 申込方法

①別紙の申込用紙に必要事項を記入の上「支部提出用」は各支部長へ提出。支部長は出席者を取りまとめ「支部まとめ」用紙を3月31日（金）までに本部事務所 jauw@jauw.org 宛てお送りください。

②参加費（総会費、懇親会費、昼食費、研修費）の送金は4月9日（日）までに、郵便振替で下記の口座に個人別にお振込みください。（別送の総会申込書等に同封の払込取扱票をご利用ください。通信欄に必ずご参加項目、支部名をご記入願います）

振込先 口座番号：00110-7-323298
口座名称：一般社団法人 大学女性協会

③総会・昼食・懇親会のキャンセルは4月28日（金）までとします。ただし、総会費3,000円は日時に関係なく返却できませんのでご了承ください。

ご不明の点がございましたら下記にお問い合わせください。

JAUW 本部事務所

TEL：03-3358-2882 FAX：03-3358-2889

jauw@jauw.org

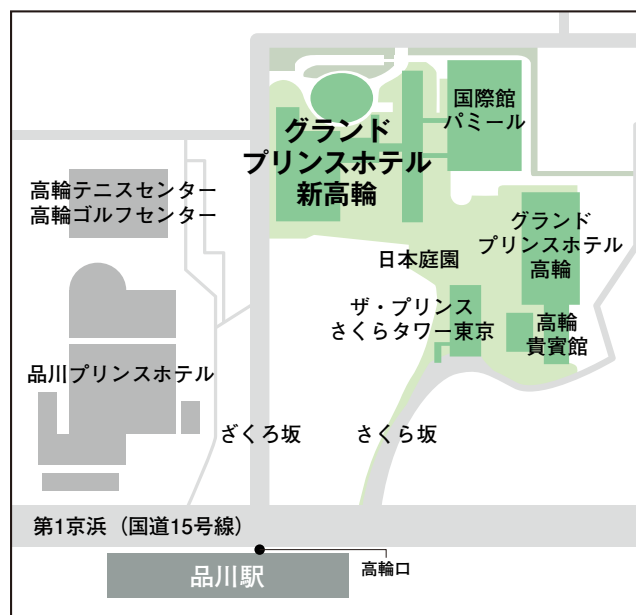
運営委員長 市川知恵子

研修のご案内

★5月22日（月）

- 歌舞伎座で歌舞伎鑑賞 一等席昼食付 21,000円
11：00～15：30 先着30名
 - 東京ベイ・ランチクルージング 9,000円
11：00～14：30 先着40名
- 詳細は同封のチラシでご確認ください

グランドプリンスホテル新高輪へのアクセス



最寄り駅 品川駅 高輪口 徒歩5分

*プリンスホテルのシャトルバスが利用できます
高輪口のタクシー乗り場から20分おきに発車
三つめの停留所：グランドプリンス新高輪 下車

会員の皆様へお願い

4月下旬に「第12回定時会員総会開催通知」と「総会議案書」、「議決権行使書」（葉書）を正会員の皆様へ発送いたします。「総会議案書」には決議事項、2022年度決算、役員選任の件、報告事項、予算等各議案が記載されていますので必ずご覧ください。定時会員総会は重要な総会です。正会員の皆様には万障お繰り合わせの上、ご出席をお願いいたします。欠席の場合は「議決権行使書」にご記入いただき、署名、捺印の上、5月15日（月）必着でご返送ください。

JAUW 新春のつどい 第1部

国内奨学金贈呈式

2023年1月14日 (土) 学士会館にて



田中国内奨学委員長



遠藤社会福祉委員長

第75回 一般奨学生・第32回 安井医学奨学生選考にあたって

国内奨学委員長 田中 紀子

大学女性協会奨学金は、将来のリーダーになり得る優秀な女子学生に学資を授与し、勉学や研究活動を奨励することを目的としており、一般奨学金、社会福祉奨学金、安井医学奨学金の3部門からなり、さらに一般奨学生と社会福祉奨学生の中から特に女性、教育、国際関係分野の研究を行う学生1名をホームズ奨学生としております。ホームズ奨学生は、大学女性協会創立に貢献したアメリカ人ル・ホームズ氏を記念して設立しました。

今年度は6月に支部を經由し大学へ募集書類を発送、同時にホームページ募集も開始、8月31日に締切りました。応募総数79名のうち一般奨学金応募者59名の一次選考で35名を選抜、社会福祉奨学金応募者6名、安井医学奨学金応募者14名を加え、55名を本選考対象としました。10月に、国内奨学委員16名の評価結果を集計、厳正な評価を行い、博士課程の前期・後期バランス、地域バランスにも配慮し選抜しました。その結果、一般奨学生6名（潤井みや、濱松若葉、平野悠木、藤田葵、松田汐利、宮本真菜）、安井医学奨学生1名（伊津野舞佳）を候補者とし、さらに上記一般奨学生6名と、社会福祉奨学生3名の中から医療・福祉系のジェンダー関連研究をしている宮本真菜さんをホームズ奨学生として選出し、11月理事会で承認されました。

近年、本選の一般奨学生は文系より理系の応募が多い傾向で、初めて文学研究の方の応募が無かったこと、文系、理系の枠組みにとらわれない文理融合型テーマも増えてきたことが特徴でした。本年度は「新春のつどい」に社会福祉奨学生も含め8名が参加され贈呈式が行われました。

この場を借りましてご協力賜りました全国支部の方々、関係理事に感謝申し上げます。

第51回 社会福祉奨学生選考にあたって

社会福祉委員長 遠藤 理枝

今年度も6月1日～8月31日の間募集を行い、大学生は沖縄県1名、東京支部2名、長野支部1名、茨城支部1名の計5名、大学院生は東京支部1名の応募がありました。厳正かつ慎重に選考し、身体に障害を持つ学業・人物ともに優秀で将来リーダーとなり得る女子学生として、生命、治療、リハビリの支えとなる栄養学を学ぶ長野県立大学健康発達学部4年生の遠山桃子さん、電子情報技術の医療分野への応用について学ぶ琉球大学工学部2年生の片山祈実香さん、文科省の「トビタテ！留学 JAPAN」制度でフランス留学後、女性として障害者として多様な視点を持ちつつ国際協力と平和に関しての研究を深めている東京大学大学院総合文化研究科地域文化専攻博士課程2年生の安田知夏さんが選ばれました。奨学生の皆様のご活躍をお祈りします。

ホームズ奨学生

スポーツ界における女性の立場改善を目指して



新潟医療福祉大学大学院
医療福祉学研究所 博士後期課程1年
宮本真菜

女性アスリートにおいては、栄養摂取が不十分になると、月経不順・無月経などの重大な問題が引き起こされる。しかし、栄養摂取不足がどのような機序で月経不順を引き起こすのか、また、月経不順にどの栄養素が関連しているのかについては明らかでない。私はこれまでに、栄養摂取だけでなく、心的不安が月経不順を引き起こすことを国際レベルのアスリートを対象とした調査により明らかにしてきた。一方で、ビタミンDの摂取が心的不安を軽減させる可能性が示唆されている。今後の研究では、様々なレベルのアスリートを対象に、ビタミンD摂取強化により心的不安と月経不順が軽減されるか否かを検証する。本研究結果は、女性アスリートにおける心的問題、月経不順の問題を軽減するための栄養摂取のあり方を示すことに活用できると考える。月経不順を改善する方法として、ビタミンD摂取に着目している研究は他になく世界に高いインパクトを与える研究が可能であると考えている。

女性の月経機能は生殖機能を維持するために重要であるにも関わらず、月経に関する研究は非常に限られている。スポーツの世界においては、女性が無月経であることを強要されている競技が未だに存在している。女性の本来の身体がどのようなものなのか、社会全体が正しく月経を理解することは非常に重要であると考えている。私は、栄養学やスポーツを通じて「女性」への理解を深めるために有用な研究を続けていきたい。

一般奨学生

生合成工学を用いたテバインなど医薬品原料の
新規生産系の開発

神戸薬科大学大学院 薬学研究科
博士課程3年

潤井みや

薬用植物や生薬のほとんどを輸入に頼っている我が国において、医薬品原料になる植物有用化合物の迅速な生産と安定供給は重要な課題です。例えば、ケシに含まれるモルヒネやテバインはオピオイド系鎮痛剤の原料として用いられますが、主に植物からの抽出により生産されており、植物の生育に広大な土地と時間を要します。そのような化合物の安定供給を目的に、生合成経路を微生物に再構築し生産させる生合成工学が発展してきています。これまでに私は、大腸菌とピキア酵母という2種類の微生物を混合培養させることにより、植物有用化合物を生産できる方法を開発してまいりました。本研究では、その方法を基にテバイン生産系を作成し、微生物間での中間体の受け渡しやテバインの培地への放出を促す輸送体を導入することで、効率的な培地からの回収および生産性の向上を目指します。植物有用化合物の微生物高生産の基盤が構築されることで、我が国の生薬や医薬品原料の安定供給、さらには医療の発展に繋がると考えられます。

現在、6年制薬学部出身の博士課程進学者は1.4%と非常に少ないのが現状です。将来、私は博士の学位を取得し、薬剤師免許を持つ女性研究者として、基礎と臨床の架け橋となり、医療分野での研究活動や6年制薬学教育に貢献したいと思っています。より多くの女性が、研究という魅力あふれる活動に進出するきっかけとなるような女性研究者像を目指すため、勉学と研究活動に専念してまいります。

障害者の「本質的就労」のための「能力」観の転換



津田塾大学大学院 国際関係学研究科
後期博士課程2年

濱松若葉

障害者就労を支援する法律・施策があっても、中身が形式的になっている例が日本に見られる。仲間として雇用しながらも、教育やサポートの必要がない単純な仕事ばかり与え、職場での居場所、さらには自立の機会すら合法的に奪う。法律上問題はなくとも、結果的に障害者が隔離され続ける「形式的包摂」の中で、職業自立が叫ばれている。

これは、日本が障害者就労政策の参考にしてきた経緯をもつ、アメリカの状況とは異なる。アメリカは、公民権運

動やフェミニズム運動とも連携しつつ、仕事における「能力」を考え、周囲のサポート（合理的配慮）を含めて本人の就労「能力」と認める議論・法律の制定を行ってきた経緯をもつ。しかし、日本では就労「能力」を考えることが障害者の社会的排除に繋がるとして当事者から危険視され、あえて議論をさけてきた背景があった。

障害者には「できない」と考える、日本の「能力」観そのものが、「本質的排除」と呼びうる状況を生み出した可能性がある。働く障害者の数を増やすことを目的とする形式的包摂は、「本質的排除」と表裏一体だ。就労の進展には、身体に依存した「できる／できない」ではなく、周囲のサポートを含めて考える「能力」観への転換を促す必要がある。本研究は「能力」観の転換方法を分析し、条件や方法を解明するものである。これは「労働の本質性」を問う議論でもあり、性差別の問題など、広い射程を持つ。これを課題として視野に入れ、より一層研究に励みたい。

リグニンの空気酸化によるバニリン生成機構の解明



京都府立大学大学院
生命環境科学研究科 博士前期課程2年

平野悠木

環境問題が深刻化する現在、脱炭素化や再生可能資源の利用促進は非常に重要な課題となっています。私は化石資源の代替エネルギー源としての木材利用に注目し、木材の主要構成成分であるリグニンの化学変換についての研究を行っております。リグニンは木質の主構成成分の一つであり、芳香族高分子構造を持つことから、化石資源に替わる低分子芳香族化合物の供給源として期待されております。特に、アルカリ条件下での空気酸化により、針葉樹リグニンを香料や医薬品原料として化学産業で重宝されているバニリンへと変換する技術は、既に商用レベルであり、非常に有望であります。しかし本プロセスは、低バニリン収率等が原因で現状では世界シェアの数%程度を占めるに過ぎません。私はリグニンからのバニリン製造プロセスの改善を目指し、リグニンの空気酸化によるバニリンの生成機構を調べております。本研究の目指すところである「木材の化学原料物質への変換」が実現すれば、これまで化石資源に依存していた香料や医薬品原料を木材から得ることができ、再生可能資源である木材の利用用途が拡大されると考えております。

我々が抱える環境問題は、年々その深刻さを増しております。私は将来、国内外の企業や研究機関で、バイオリファイナリー研究やこれに関連した研究開発に従事する研究者になり、我々が抱える環境問題に様々な視点から着手していきたいと考えております。

日本における会社による農業経営の起源と発展



政策研究大学院大学
政策研究科修士課程
国際的指導力育成プログラム2年

藤田 葵

社会人大学院生として、企業勤めをしながら大学院に通っている。勤めて

いる会社は異業種から農業参入して農業経営をしているが、現代日本において企業の農業参入、個人農業者の法人化など会社による農業の重要性が高まりつつある中でも、主な農業の担い手は個人であり続けている。

なぜ現代にいたるまで会社による農業経営は傍流にとどまっているのか。歴史的に日本の農業界で会社とはどのような位置づけにあったのか。

近代の日本農業は、地主-小作関係の上で主に個人に支えられてきたが、農業事業を行う会社（「農業企業」）もあった。本研究は、日本での農業企業の起源を説き起こすべく、これまで日本初の農業企業と言われていた開進会社以前に1872年に榎本武揚が設立・運営した北辰社を取り上げ、その経営目的、事業内容、特徴を明らかにし、後に他の会社の農業経営に与えた影響を検討する。

今後は現在の会社での経営企画の業務を続けながら博士課程進学を目指しており、分析対象期間を1800年代末まで延長して近代日本における企業による農業の潮流をテーマとし、現代の企業による農業経営に対して歴史的観点から教訓・示唆を与え、今後あるべき企業主体の農業経営の要諦を探る予定である。

生体深部のイメージングに向けた光照明技術の開発



立命館大学大学院 理工学研究科
電子システム専攻 修士課程2年

松田 汐利

光によるバイオイメージングは、非破壊かつ非侵襲で生体の表面近傍の構造や機能情報を可視化することができる一方、生体深部まで光を届けて“みる”ことは難しい。

これは、生体内の不規則な細胞の形状や並びにより、生体内で光が様々な方向に散らばる散乱現象が原因である。散乱現象を除去し、生体深部まで光を届けることができれば、より多くの生命現象を生きたまま観察できる。

本研究は、散乱現象を補正することで、現状では不到達の生体深部まで光エネルギーを届ける「生体深部照明技術」を開発する。この技術により、マウス脳深部の低侵襲かつ高分解能な観察と生命機能の解明を目指す。本研究の特徴は、観察ツールとしてだけでなく、マウス脳の神経細胞活

動を操作する光操作ツールとしても貢献が期待される点である。指定した神経細胞のみに光を照明し、光で細胞の働きを活性化させることで、認知機能の改善など脳神経に関わる病気の治療に貢献できると考える。

将来、人類未踏の“生体深部のイメージング”という大きな研究課題に対して、専門分野や国籍の垣根を越えて連携することで解決し、世界にインパクトを与えたい。また、大学教員になり、自身の技術に対して、社会貢献まで見据えた幅広い視野と柔軟な思考をもつ次世代の研究者の育成に努めたい。全ての人が生活の質を向上することができる科学技術の創成を目指し、今後も研究を続けていきたいと考える。

安井医学奨学生

老化ヒト細胞を用いた神経変性疾患モデル細胞の構築と薬剤探索



慶應義塾大学大学院 医学研究科
医学研究系専攻 博士課程2年

伊津野舞佳

日本では、65歳以上の高齢者の約4人に1人が認知症やその前段階にある。なかでも、認知症の原因の約7割を占めるアルツハイマー病で見られる病理像「タウの蓄積」は、

様々な神経変性疾患に共通し、神経脱落や認知機能低下と相関する。よって、タウによる神経変性機構の解明は、疾患横断的な薬効を示す疾患修飾薬の開発に貢献すると考え、タウ変異と老化との関連性の解明を目指している。また、タウを標的とした薬剤開発は各国で進んでいるものの承認には至っておらず、抗タウ治療薬候補も探索している。

幼い頃から憧れていた医師は、あらゆる人を、健康にするという方法で「応援」する職業だ。臨床の現場で、患者さんと接するほど、子供から高齢者まで、女性医師にしかできない「応援」の形があると感じる。目指しているのは、治療法開発の一助となりたい疾患、あるいは臨床上の疑問点に対し、「すぐに」研究課題解決に向けて動くことのできる科学者である。大きな目標を追いながらも、日々は一人ひとりに丁寧に向き合い、臨床や研究でサポートできる存在になりたい。

これまで、国内外で出会った女性リーダーの力強さ、主催した女子学生向けイベントの若い世代の勢いなどにふれ、自身の成長が次の世代を刺激することに繋がると確信した。国や性別を超えて活躍できる人材を目指して努力する。その過程で、誰かのロールモデルになる様な存在になりたいと願っている。

社会福祉奨学生

電子情報通信技術の医療分野への活用



琉球大学 工学部2年

片山祈実香

大学入学から現在までの2年間、工学分野の学修に加え、医療分野の知識を得ることに努めている。また、数多くの分野で発展が顕著で世界的にも注目を集めている中国の言語や文化を学ぶことで国際的に活躍できるようになることを目指している。課外活動では文部科学省による「がん教育外部講師」の研修も受けるなど自身の小児がんや障がいの経験を教育現場に役立てるための勉強を続けているが、これは発信力の向上にもつながり自身にも大変有益になると考えている。このように工学分野に限らず様々な分野から知識を得ることで、国際社会で幅広く活躍、貢献できる人材になれるように努力している。昨今では医療分野にも工学技術が応用されており、医療と工学は密接な関係にある。そのため、自身の障がいや闘病の経験を活かすには格好の分野だと考えている。卒業研究では、画像解析の医療への応用を課題として選択したいと思っている。卒業後は工学と医療の融合に関わる職業に就き、その分野で貢献できるように努力しつつ、国際社会のリーダーとしても社会に貢献できるような人材となることを目指していく。

病院管理栄養士を目指して



長野県立大学 健康発達学部
食健康学科4年

遠山桃子

私は将来、管理栄養士として病院で活躍することを目標としており、大学で栄養学について学んでいます。栄養学とは、食べ物に含まれる栄養やその栄養がどのように人体の中で働くのか、食べ物の安全性、健康な人から病気の人まであらゆる人の栄養管理など、食べものと健康について広く学ぶ学問です。これは高校生からの目標でしたが、事故に遭い、障害を負ったことで諦めかけたこともありましたが、それは自分の強みであると捉えることができるようになりました。その強みを生かして、管理栄養士として役に立つことができると考え、病院の管理栄養士として働きたいと今まで以上に強く思うようになりました。しかし、

車椅子で生活する私にとって、できる業務には制限があります。そんな中で管理栄養士として活躍するためには武器となるものがあつたと思えました。そこで、更に臨床の知識を深め、研究を行い、臨床研究のできる管理栄養士になることを目指し、卒業後は大学院へ進学することにしました。また、私が身に着けた知識とこれまでの経験を活かし、私と同じように障害を持つ人の助けになりたいと考えています。栄養学によって障害を治すことはできなくても、管理栄養士として障害を持つ人たちがこれからの人生を健康的に生きていけるための支援をすることはできると思います。これらの目標を達成するためにも、まずは管理栄養士国家試験合格に向け、引き続き勉学に励んでいきます。

EU（欧州連合）の文化政策における政策過程

—1992-2019年の分析から



東京大学大学院 総合文化研究科
博士後期課程2年

安田知夏

私はEUの文化政策について研究しております。イギリスの離脱や加盟各国での極右政党の台頭など、EU懐疑主義の動きが高まっており、経済・政治面だけで欧州統合を進めることには限界が露呈しています。このような情勢の中で、近年EUが活発に実施している文化政策について、骨子となる文化政策の事例を基に、EU文化政策における政策過程を明らかにすることを試みております。現在は、EU公式文書を用いて、EU主要3機関の文化政策への関与の強弱及び意図、文化政策における主要機関同士の関係及びその関係の変化に着目しながら分析を進めております。私は、フランスパリ政治学院での留学時代、多文化な社会において人々が共生することの難しさをヨーロッパで直に体験しました。多様な人々から構成されるEUの文化政策の政策過程を研究することで、国家を超えたレベルでの文化的協力の方法を提示することができると考えております。欧州統合は、2度の世界大戦後、平和を目的として開始した歴史を有しています。そして、EUの文化政策が、加盟国の多様性を尊重し、各国の文化活動をサポートし、加盟国間の文化的協働を促進していることに多文化共生への模範例としての可能性を感じています。EUの文化政策を研究することで、多文化共生の実現に貢献できると考えており、将来は、国際的な多文化共生及び世界平和の実現に貢献し、社会的に意義のある研究を行い、アカデミアと一般社会の繋がりを作る研究者となることを目指します。

第34回 GWI 総会 2022年11月11日～13日

国際担当理事・CIR 岡崎優子

第34回 GWI 総会はオンラインで開催され、2日間の本会議と1日のセミナー・ワークショップに JAUW から会員12名が参加した。一日目はテリーGWI会長（オランダ）の開会挨拶、共同ホストのインド連盟会長挨拶、Howard 大学ヘレン・ボンド博士によるSDGsに関する基調講演。翌日、前会長ギータ・デサイが基調講演「GWIの更新と再構築」の中で、GWI財政の立て直しの努力を語り、信念に基づく活動を発案・公表し、資金提供者を説得して活動を継続する重要性を訴えた。この路線を引き継ぎ、【写真参照・左から】パトリス・ウェルズリー・コール会長（英～シエラレオネ出身）、副会長6名一提唱活動担当：シャイラ・ミストリー（米～インド系）、教育担当：シャーリー・ギレット（ニュージーランド）、資金調達担当：ネッカ・Chiedozie-UDEH（ナイジェリア）、法務担当：ウジュワラ・シンデ（印）、マーケティング担当：シュルティ・ソントリア（印）、会員担当：ミーラ・ボンドレ（印）、プロジェクト担当：ミルドレッド・アスマ（ガーナ）、財務理事：スーダ・シヴァステヴァ（英～ヤングメンバーネット代表、インド系）が選ばれた。二日目に政策決議の紹介と投票があり、1～10の

決議案は代議員の全会一致で採択された。（決議1 デジタル学習への平等で安全なアクセスを含む教育のための国内資金の増加の確保）（決議2 大学及びその他の中等後教育における女性の人権の促進及び擁護）（決議3 職場の対ハラスメント政策）（決議4 世界の女性すべての地位向上への積極的な貢献として、メディアにおける女性の過小評価に終止符を打つ）（決議5 政治における対女性暴力の根絶）（決議6 女性と女兒のためのパンデミック後の回復）（決議7 気候変動とジェンダー）（決議8 清潔で健康的かつ持続可能な環境は人権である）（決議9 気候非常事態宣言と行動計画）（決議10 使い捨てプラスチックとプラスチック包装の削減） JAUWは5、6、8、9に対して動議の段階から支持を表明した。本会議は日本時間午前3時過ぎに予定より早く終了し、Stacy 事務局長がランプを手に持ち、皆にマイクのミュートを外してGWIの歌を合唱するよう促した。オンライン総会を無事終わられて感無量の様子だった。

2名の投票代議員として、岩村会長と前CIR鈴木、元CIR 穂田と CIR 岡崎が交代で務めた。日本では真夜中の開催となり、残念ながら、参加が難しい会員も多かった。



GWI 第34回総会・大会に参加して

国際ネットワーク委員・東京支部 大井恭子

この度、GWI 第34回大会に参加した。私は今年度から JAUW の会員になったばかりであり、GWI の全体像がまだつかみきれておらず、参加が躊躇された。しかし、この大会は3年に一度の開催であり、また私は国際ネットワーク委員であるということもあり参加することにした。時差がある中でのオンライン開催であり、運営側にはかなりの負担であったことと推察する。結果としては大変意義深い

体験となった。

GWI 第34回総会は「成長から持続性へ（From Growth to Sustainability）」という統一テーマを掲げ、2022年11月11～13日にオンラインで開催された。参加者は40か国から300人以上と報告されている。

私が興味深いと思ったのは、13日のコンフェレンスではワークショップや学際的セミナーが数多く用意されていることであった。どのトピックも面白く、選ぶのに苦労した。教育面での現代的課題、COVID-19の影響など、5つのサブ・テーマで25件のワークショップ、セミナーが展開された。

私は日本のメンバーである Valerie Wilkinson さん（画面左上：国際 NW 委員・静岡支部）と Kei Foran さん（画面下：神戸支部国際委員長）が企画された Workshop2に参加した。お二人は日本のジェンダーギャップの現状を報告した。報告の後は、ブレイクアウトルームに分かれて、直接他の参加者たちと討議することができ、特にリトアニアなどの国情の異なる女性たちとの話し合いは大変有意義であった。

このコロナ禍で Zoom によりこのような会議が世界規模で実現可能になったということはまさに不幸中の幸いであると言える。



モデレーター
役の鈴木千鶴
子国際NW委員
長（上）

11月13日日本時間21：15から始まったワークショップ

国連第3委員会本会議に参加して

愛知支部 Irene Gashu (賀集イレーネ)

第77回国連総会第3委員会本会議に約5週間毎日6時間参加しました。

私の最初のステートメントは社会開発についてでした。先ず、私が女性のNGOの推薦を受けて、日本政府代表顧問として参加していることを説明しました。そして、社会の向上のために日本は障がい者、女性、食糧安全保障とユニバーサル・ヘルス・カバレッジを支援していくと述べました。

私の次のステートメントは「女性の地位向上」についてでした。次の主な4項目を発表しました。

- 日本政府は6月に「女性版骨太の方針」を作成
- 女性のエンパワーメントを促進するために「国際女性会議 WAW！」を12月に開催
- 岸田総理は HeForShe チャンピオンに就任
- 「女性・平和・安全保障」は日本の優先課題

他にも児童の権利(2023年4月に「こども家庭庁」を創設する)、先住民の権利(アイヌ文化を復興させるためにウポポイ〈民族共生象徴空間〉をオープンし、コロナ禍で65万人以上が来場した)、障がい者の権利(日本は「障害者権利条約」を再確認して、包摂的な社会の実現を目指す)、ハンセン病(日本がこの病気に関する差別の解消に向けて取り組んでいる)について、コメントしました。

一つ感じたことは「言語の不平等」です。母国語で発言出来る国と出来ない国とでは非常に大きな差があります。平等にするには母国語で発言することを禁止すると良いと思いました。ともあれ、様々な人権問題に取り組んでいる専門家達の報告を本人から直接お会いして聞け、世界中の代表者達とお話のできたので、第3委員会に参加して良かったと思っています。



議場にて



国連本部



第3委員会議場

Jカフェ第14回報告

「素晴らしき足元の世界へようこそ」～野草の効能を知り 美しく健やかに生きる～

講師：岡山支部 中山智津子

講師の中山智津子さんには岡山支部の昨年9月の研修会で講師になっていただき、講演の後のドクダミ化粧水作りも、大好評でした。その中山さんが、Jカフェの講師をされるとお聞きし、参加させていただきました。

最初に薬草の歴史についてのお話があり、古代エジプト

では紀元前3000年から紀元前1000年頃、パピルスに数百種類の薬の名前が記録されているなどとお聞きしました。その中で、現在スーパーフルーツとして流行しているデーツ(ナツメヤシ)はイスラム圏の方がラマダン明けに食べられる食べ物であることを知りました。デーツは最近岡山のスーパーでも売られているのを見かけるようになりましたが、お話を伺い試してみようと思いました。

「お悩み別お勧め野草」では、糖質コントロールの野草として、クワ、カキオドシ、肝機能の働きを助ける野草として、ノブドウ、利尿作用が期待できる野草として、サンキライ、アケビ、スギナ、ドクダミ、カワラケツメイ(はま茶)があるとのことでした。また、ヨモギが体を温める効果があり、織田信長がヨモギを入れたお風呂に入っていたとのことのお話も初めて知りました。

中山さんは、絵もお上手で、パワーポイントの中にとてもかわいい絵を入れておられました。多才で素敵な中山さん、これからのご活躍も期待しています。

岡山支部 岡本良子



内村鑑三記念今井館 こけら落とし公演

～チェロとチェンバロ バロックコンサート～

文化事業委員会

2022年11月26日（土）今井館聖書講堂に於いて大学女性協会主催の「チェロ（懸田貴嗣氏）とチェンバロ（平井み帆氏）バロックコンサート」が開かれました。

はじめに加納孝代・今井館教友会理事長から新築移転された今井館についてのお話がありました。1907年新宿区柏木に建てられた今井館は、日本近代の思想家の一人でありキリスト教無教会派の創始者である内村鑑三が亡くなるまで愛し、講義を続けた場所です。2021年に六義園前に新築移転したモダンな建物には沢山の小窓と大きな嵌め込み窓があり、外の景色が絵画のように取り入れられています。2階にある聖書講堂の吹き抜けの天井には三つの天窓があります。

カサブランカのステージフラワーを背に、演奏はヴィヴァルディ「チェロ・ソナタ第9番ト短調 RV42」で始まりました。イタリア貴族のサロンに招かれたような、そんな気持ちになりました。バロックチェロ（b.vc）も、チェンバロ（cemb）も、楽器を間近に見たのも聴いたのも初めてでした。どちらも形・作り・音色はピアノやチェロとは大きく異なっていることに気づきました。b.vcは脚で楽器を支えるためエンドピンは無

く、弓の形もチェロとは異なっています。また、弦は羊の腸からなっています。ピアノの先祖といわれる cemb は弦を叩いて音を出すピアノとは異なり弦を爪ではじいて音を出します。cemb は分解してエレベーターで運べるということや演奏中でも調律を必要とすることに驚きました。演奏の途中で調律するのは弦をはじいて演奏する他の弦楽器と同じだと私なりに納得いたしました。

少し雑味のある音色の b.vc と優雅な音色の cemb の演奏は控えて繊細でした。平穏な日々を願う私の心を包み癒してくださった懸田貴嗣さん、平井み帆さん。素敵な一日を有難うございました。

事業担当理事 松崎和子



新春のつどい 第2部

親睦事業委員長 植松ちどり

今年の新春のつどいは、諸般の事情により、装いも新たに会場をホテルから学士会館に移して開催する事になりました。昨年はコロナ禍、今年は初めての会場と、毎年不安のなかの開催でしたが、無事に終了でき、ここにご報告できますことは、携わった者としてある種の感慨すら覚えます。授与式は、静かに、厳かに、より格調高く進み、安堵のなか無事終了いたしました。

第2部は、奨学生がそれぞれ一人ずつ会員のテーブルにつき、加納孝代前会長の乾杯のご発声により、和やかに始まりました。外は雨模様ですが、会場は皆さんの笑い声や、軽やかな食器の触れ合う音で、華やかで、まるで晴天のような明るさを感じたのは、私だけではないと思います。例年ですと、ここで一つお楽しみのイベントがあるところですが、今年は、コロナや世界不穏のなか、いかに過ごしていらしたかの、会員の皆さんの直のお声を伺いたく、敢えて何も入れませんでした。食事が進むなか、岩村会長をはじめ、副会長、各支部の皆様が、この2年間のご自身の思いや生活観、事件などを緊張されたり、ユーモアを交えたりとお話ししてくださり、会場はアットホームな雰囲気に変

わりました。

いつもは時間が迫って慌てて終了していましたが、今年は十分時間があり、あるテーブルから奨学生がお話ししたいと発言があり、早速マイクを回しました。改めて自己紹介と研究に至るまでの経過や、学生生活、ボランティアについて、リラックスしてお話しされ、研究発表とは全く違う一面が見え、会員の皆さんとの距離が一気に縮まった瞬間でした。そのお話のなかで、授与式はもとより、こうして会員の方と一緒にテーブルを囲んで楽しく食事をして、お話しすることは、この会をより知ることができ、この受賞がもっと嬉しいものになったと、お褒めのお言葉をいただき、会員一同大きな拍手となりました。ある学生さんは、勇敢にも「老いることは怖くない。皆さんを見て思いました」と発言され、場内大いに盛り上がり、大笑いとなりました。

印象的な言葉がありました。「これからの世界は武器より文化を」という安田知夏さんの発言です。この言葉を胸に、来年も頑張ろうと、心に誓いました。



バザー風景



会場風景



乾杯挨拶の加納前会長

東京支部オンライン講演会

「言語保持と社会変化に対応するイヌイットの女性たち」

講師 東京支部 長谷川瑞穂

東京支部では昨年11月20日午後、2022年度第2回オンライン講演会を行いました。JAUW事務所のネット環境が良いので、司会の宮下委員が高性能のマイクを持参、補佐の進士委員と共に、会議室のコーナーに素敵なスタジオを作ってくださいました。参加者は53名でした。

長谷川会員（前東京支部長）は大学教員を退職後、70歳で東京外国語大学博士後期課程に入学、72歳で単身北極圏に近いカナダ・ヌナブト準州都イカルイトに調査に行き、最短の3年で73歳の時に博士号を取得されました。

まず、世界で多くの言語が消滅している現状説明の後、言語はコミュニケーションの手段のみならず民族の歴史や文化と深く関わっていることや、生物の多様性と同様、言語の多様性が大切であることが述べられ、言語保持の重要性を理解することができました。次に、長谷川会員が少数言語の一事例としてイヌイット語に焦点を当てた経緯を述べられました。1999年にイヌイットが85%を占めるヌナブト準州が成立し、イヌイット語が準州の公用語となりその言語保持に努めることが法で謳われていますが、現地での調査の結果イヌイット語の使用率は減少し、イヌイットのイヌイット語運用能力も年々低下している事実が判明し、言語保持の難しさが説明されました。背景には植民地主義が姿を変えたホワイト・カルチュラルイズム (G. Hage)、イヌイット自身の意識の問題があることが講師により指摘されました。

一方で、現地でのアンケートやインタビュー調査の結果や最近のネット上での資料などの分析から、イヌイットの男性よりも女性の方がやや高学歴であること、社会進出にも成功していること、イヌイット語の使用率もより高いことを明らかにし、イヌイット社会では女性の方が言語保持や社会変化にうまく対応していることを実証的に証明されました。

講演終了後、講師の希望を取り入れフロアーの視聴者にもディスカッションに加わっていただくために、ブレイクアウト・ルームに分かれていただき、参加者が意見を述べる機会がありました。東京支部としては初めての試みでしたが、まずまず成功したのでは…と考えております。

東京支部長 鷺崎千春



講師（左）とイヌイットのハナさん、イカルイトにて

静岡支部オンラインで初の公開シンポジウム開催
「女性のキャリアアップ～意思決定プロセスへの参画のために」

静岡支部 勝又幸子

2022年12月18日（日）午後2時から100分間、静岡支部初のオンライン公開シンポジウムを実施しました。「女性のキャリアアップ～意思決定プロセスへの参画のために」というテーマは2019年から静岡支部が独自に進めてきた調査研究の一環です。県内で管理職についている8名の女性たちにインタビューした結果をまとめた報告書を、JAUWホームページの静岡支部の活動に2020年4月に掲載しています。

今回は2019年調査にご協力いただいた県内の管理職経験者8名のなかから、4名の方にパネリストとしてご参加いただき、女性が管理職になりさらに職場の意思決定に関与していくために、それを阻む障壁は何かについて、まずそれぞれのご経験をお話いただきました。そして、そのあと各パネリストを含む4つのブレイクアウト・ルームにわかれて参加者（総数19名）が意見交換をしました。このセミナーについては今年度末に報告書として公表予定です。

パネリストは行政（市役所や消防署など）、テレビや新聞の報道企業で管理職についている方々で、自分のキャリアパスを振り返って各職場における女性の意思決定プロセスへの参画状況についてお話いただきました。近年管理職になる女性は増えてきましたが、意思決定にコミットできるラインの管理職に就く女性はまだまだ少ないという発言がありました。組織のラインの管理職が多くの場合男性で占められている時、はじめて女性が入っていくのは容易でないことも共通の状況でした。しかし、職場内外でよいコミュニケーションをとって仲間を増やし、その職階に有用な資格などを習得していく努力を惜しまないようにするという意見もありました。社会全体としてラインの女性管理職数を増やすためには、クオータ制などの制度やそれを支える法律を整備することも不可欠ではないかという意見が出されました。そして、これから管理職候補になる若い人たちにこそ先達の経験を伝えていくために、女性のキャリアアップの事業として継続していくことが必要だという合意が得られました。静岡支部では令和5年度もこの事業を続けていくことになっています。



第25回大学女性協会 守田科学研究奨励賞贈呈式・受賞講演会

第25回守田科学研究奨励賞贈呈式および受賞講演会、祝賀パーティーを下記の要領で開催いたします。多くの皆様にご参加いただきたくご案内申し上げます。

日時 2023年6月4日(日)
 贈呈式 13時00分～13時20分(対面形式)
 受賞講演 13時30分～14時40分(Zoom 配信)
 受賞記念パーティー 14時50分～16時00分(対面形式)
 会場 アルカディア市ヶ谷(私学会館)
 東京都千代田区九段北4-2-25
 TEL 03-3261-9921
 JR 中央・総武線(各駅停車)、東京メトロ、都営地下鉄「市ヶ谷駅」下車徒歩3分
 記念パーティー参加費 3,000円
 受付開始 4月20日(予定)

*WEBでの申込受付を予定しております。
 *新型コロナウイルス感染症の状況により、ハイブリッド開催に変更する可能性があります。詳細はHPでご確認ください。
 (変更がある場合は、参加申し込みをされた方にはこちらからご連絡いたします。)

(一社)大学女性協会80周年記念募金パトリシア寄付者ご芳名

期間：2022年11月1日～2023年1月31日
 寄付者人数：6名、寄付金額：200,000円
 上記期間中の寄付者ご芳名(敬称略・支部別 五十音順)
 (仙台支部) 中屋紀子 (東京支部) 加納孝代、窪田憲子
 (神奈川支部) 鷺見八重子 (奈良支部) 橋本慶子
 匿名1名
 全体期間：2021年4月30日～2023年1月31日
 寄付者延人数：219名、寄付総額：2,470,500円

寄付金の振込先口座
 銀行：ゆうちょ銀行
 名義：一般社団法人 大学女性協会
 ① 払込取扱票(郵便振替)で行う場合
 口座記号及び口座番号：00130-0-587701
 ※パトリシア募金専用の払込取扱票をお持ちの場合は、そのまま使用可能です。
 ② 他行から振込の場合
 支店名：〇一九店
 口座種類及び口座番号：当座 587701
 ※ゆうちょ銀行口座から振り込まれる場合も同じです。

初夏のバリトンコンサート 文化事業委員会

～あの感動をふたたび あなたと！～

バリトン 加来 徹 ピアノ伴奏 河野紘子

日時：6月15日(木)
 14：00開演(13：30開場)
 場所：けやきホール
 小田急線代々木上原駅徒歩3分
 チケット：3,500円(一般)
 2,000円(学生)

☆1年前のコンサートのアンコールに控え、ますます活躍の場を広げた日本音楽界の逸材の歌を是非一緒に！

*詳細については事務所まで



目標に向けたあらゆる世代の協力で希望を託して

毎年3月は、国際女性デーそして国連女性の地位委員会(CSW)へと続き、ジェンダー平等社会の実現に向けて世界が大きく動く時です。ところが、2020年3月のCSW64への日本からの参加は、コロナの影響で直前に中止となりました。以来3年ぶりに今春のCSW67が原則的に現地での対面開催となり、大学女性協会では国際会議参加支援制度を適用し、2名の若手派遣者を決定しました。

両名は国際基督教大学3年生で、昨年9月よりエジンバラ大学へ留学中です。小林萌菜さんは、中学時代に聖心女子学院の大先輩緒方貞子氏のお話を直接うかがい、国連と世界課題に関心を寄せ勉学に励んでいます。嶋田梨子さんは、大学一年次で参加した模擬国連会議ニューヨーク大会(オンライン)で、優秀大使賞を受賞した経歴の持ち主です。平和な世界を実現する基盤、SDGs 達成のためには、コロナで後退した女性の地位の回復、わけても若手の参画が欠かせません。

鈴木千鶴子(国際ネットワーク委員長)



小林萌菜さん



嶋田梨子さん

初代国立劇場さよなら公演 収益事業委員会

1月23日は歌舞伎「遠山桜天保日記」を16人で鑑賞。出演者は尾上菊五郎、菊之助、松緑、中村時蔵ほか。菊五郎劇団の明るく楽しい展開と大立回りの醍醐味。フィナーレの華やかさの中、最後の「初春歌舞伎公演」は静かに幕を引きました。

2月20日(月)の文楽「心中天網島」は近松門左衛門の最高傑作と言われた作品。人形浄瑠璃「三業一体」の芸の奥深さを10人が堪能しました。

新入会員 理事会承認 2022年11月～2023年2月

東京支部 土部元子 岡山支部 玉崎 葵

理事会から

- ▶ 12月26日、支部長忘年会が行われ、Zoom 画面を通して交流が図られました。
- ▶ 2月は5日奈良支部、11日神奈川支部が、12日国際ネットワーク委員会が、それぞれ県境・国境を越えた講演会を開催しました。19日には京都と東京の会場をネットで結ぶ若手初企画のワークショップを実施しました。
- ▶ 2023年度のセミナーは一日半の日程で10月21、22日に実施することに決まりました。
- ▶ 事務所の開業時間は原則的に、月、火、木、金の10：30～16：00です。

一般社団法人 大学女性協会
 〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6 パトリシア信濃町テラス101
 電話 03-3358-2882 F A X 03-3358-2889
 https://www.jauw.org E-mail:jauw@jauw.org
 発行人 岩村 道子 編集責任者 端本 和子
 発行日 2023年3月6日